

源氏のさ大しやう。○源明えもいはずかしづき給ひどりむすめを、さやうにとほのめかし聞え給ければ、みかともみやも、おほんけしきさやうにおばしければ、よろこびてやがて其夜参り給、例の宮たちは、我さとにおはしそむる事こそ常の事なれ、これは女御更衣のやうに、やがて内におはしますに参らせ奉り給べきさだめあれば、例の女御更衣の參はざることなり、これはいとめづらかにさまかはりいまめかしうて、おほん元服の夜やがて参り給、帝きさきの御よめあつかひの程、いとおかしくなんみえさせ給けり。

〔大鏡左大臣師尹〕今一所の女君は、○中 れんせいゐんの四のみこ○敦 師宮と申御うへ。○妻にて、二
三年計おはせしひそに、○下

〔台記〕康仁二年六月十八日癸卯、雅仁親王夫人、生男。

〔康富記〕文安元年四月廿六日乙巳、今夜有准后宣下事、當今後花園井二宮之御母略御名字從三位源幸子也、故源宰相經有卿息女也、仍爲經子而被改之爲幸子云々。

〔百一錄〕延寶四年四月六日、平明伏見宮之御臺所好君御方薨御、女院之女二宮之御息女、急病也、八音退密。

〔百一錄〕元祿十年十一月十六日、仙洞○靈宮、綾宮御方○准后腹可爲伏見殿簾中之由有言入事也、十一年四月廿九日、綾宮御方伏見殿御翠簾入、仙洞姫宮廿有餘歟、五月二日、綾宮御方、今夕伏見殿亭へ渡御、堂上北面等數輩供奉、

〔故實拾要〕姫君御入輿

是姫宮ノ親王攝家ヘ御入輿アル時、攝家ハ其姫宮ノ御所ヘ、御入輿以前ニ伺候有テ、御所ニ一宿有テ、翌朝退出シ給フ也、之ヲ御簾入ト云也、御簾入有テ以後ニ、攝家ノ方ヘ御入輿アル事也、攝家ハ臣下タルニ由テ也、御入輿ノ時ハ、必攝家ノ方ヨリ先有御簾入事也、亦親王家ヘ御入輿